

Q001

労働基準法関係

タグ：労働時間管理

用語：事業者は、運転者の始業・終業、休憩、時間外労働等を客観的に把握し、過重労働を防止する。

次の記述は正しいか。運転者の労働時間は本人の記憶だけで管理すればよく、運行記録等との照合は不要である。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q001 正答：×

解説：正確な労働時間把握は、賃金計算だけでなく過労運転防止の基礎です。

Q002

労働基準法関係

タグ：労働時間管理

用語：事業者は、運転者の始業・終業、休憩、時間外労働等を客観的に把握し、過重労働を防止する。

適切な労働時間管理として最も適切なものはどれか。

- A. 売上だけで勤務時間を推測する。
- B. 月末に本人の記憶だけを聞く。
- C. 長時間勤務の記録を削除する。
- D. 点呼、勤務表、運行記録等を用いて始業・終業や休憩を把握する。

答え・解説

Q002 正答：D. 点呼、勤務表、運行記録等を用いて始業・終業や休憩を把握する。

解説：正確な労働時間把握は、賃金計算だけでなく過労運転防止の基礎です。

Q003

労働基準法関係

タグ：36協定

用語：法定労働時間を超えて時間外労働を行わせるには、労使協定（36協定）の締結・届出など法令上の要件が必要である。

次の記述は正しいか。時間外労働を行わせる場合、36協定を締結・届出しても上限規制を守る必要がある。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q003 正答：○

解説：36協定は無制限な時間外労働を認めるものではありません。

Q004

労働基準法関係

タグ：36協定

用語：法定労働時間を超えて時間外労働を行わせるには、労使協定（36協定）の締結・届出など法令上の要件が必要である。

36協定に関する記述として適切なものはどれか。

- A. 協定があれば休日は不要になる。
- B. 口頭合意だけで無制限に残業できる。
- C. 協定を締結しても、法令の上限や健康確保措置を守る必要がある。
- D. 運転者には適用されない。

答え・解説

Q004 正答：C. 協定を締結しても、法令の上限や健康確保措置を守る必要がある。

解説：36協定は無制限な時間外労働を認めるものではありません。

Q005

労働基準法関係

タグ：時間外労働上限

用語：自動車運転者の時間外労働は、2024年4月から、特別条項付き36協定を適用する場合でも年960時間が上限となる。

次の記述は正しいか。自動車運転者には時間外労働の年間上限が適用されない。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q005 正答：×

解説：自動車運転者にも時間外労働の上限規制が適用され、特別条項の場合でも年960時間です。

Q006

労働基準法関係

タグ：時間外労働上限

用語：自動車運転者の時間外労働は、2024年4月から、特別条項付き36協定を適用する場合でも年960時間が上限となる。

2024年4月以降の自動車運転者の時間外労働上限として正しいものはどれか。

- A. 年1,500時間。
- B. 特別条項を適用する場合でも年960時間。
- C. 上限なし。
- D. 月960時間。

答え・解説

Q006 正答：B. 特別条項を適用する場合でも年960時間。

解説：自動車運転者にも時間外労働の上限規制が適用され、特別条項の場合でも年960時間です。

Q007

労働基準法関係

タグ：改善基準告示

用語：改正後の改善基準告示は2024年4月1日から適用され、拘束時間、休息期間、運転時間等の基準を定める。

次の記述は正しいか。改善基準告示は、労働時間だけでなく拘束時間や休息期間、運転時間等を定めている。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q007 正答：○

解説：改善基準告示は運転者の健康確保と安全運行に直結する拘束時間等の基準です。

Q008

労働基準法関係

タグ：改善基準告示

用語：改正後の改善基準告示は2024年4月1日から適用され、拘束時間、休息期間、運転時間等の基準を定める。

改善基準告示の主な目的はどれか。

- A. 自動車運転者の労働条件を改善し、長時間・過重労働を防ぐ。
- B. 車両価格を統一する。
- C. 旅客運賃を全国一律にする。
- D. 運転免許の試験問題を定める。

答え・解説

Q008 正答：A. 自動車運転者の労働条件を改善し、長時間・過重労働を防ぐ。

解説：改善基準告示は運転者の健康確保と安全運行に直結する拘束時間等の基準です。

Q009

労働基準法関係

タグ：拘束時間

用語：拘束時間は、始業から終業までの時間であり、労働時間と休憩時間（仮眠時間を含む）の合計である。

次の記述は正しいか。拘束時間とは、ハンドルを握っている運転時間だけをいう。

。

A. ○

B. ×

答え・解説

Q009 正答：×

解説：休憩中も使用者の拘束下にある時間帯は、拘束時間に含まれます。

Q010

労働基準法関係

タグ：拘束時間

用語：拘束時間は、始業から終業までの時間であり、労働時間と休憩時間（仮眠時間を含む）の合計である。

拘束時間の説明として正しいものはどれか。

A. 運転時間だけ。

B. 休息期間だけ。

C. 自宅から営業所までの通勤時間だけ。

D. 始業から終業までの労働時間と休憩時間の合計。

答え・解説

Q010 正答：D. 始業から終業までの労働時間と休憩時間の合計。

解説：休憩中も使用者の拘束下にある時間帯は、拘束時間に含まれます。

Q011

労働基準法関係

タグ：休息期間

用語：休息期間は、勤務終了から次の勤務開始までの、運転者が使用者の拘束を受けず自由に利用できる連続した時間である。

次の記述は正しいか。休息期間は、運転者が使用者の拘束を受けず自由に利用できる時間である。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q011 正答：○

解説：休息期間は拘束時間外の時間で、単なる勤務中の休憩とは異なります。

Q012

労働基準法関係

タグ：休息期間

用語：休息期間は、勤務終了から次の勤務開始までの、運転者が使用者の拘束を受けず自由に利用できる連続した時間である。

休息期間の説明として適切なものはどれか。

- A. 運転中の信号待ち時間。
- B. 点呼中の時間。
- C. 勤務終了から次の勤務開始までの、自由に利用できる連続時間。
- D. 車両清掃中の時間。

答え・解説

Q012 正答：C. 勤務終了から次の勤務開始までの、自由に利用できる連続時間。

解説：休息期間は拘束時間外の時間で、単なる勤務中の休憩とは異なります。

Q013

労働基準法関係

タグ：バス・年間拘束

用語：バス運転者の年間拘束時間は原則3,300時間以内、1か月は原則281時間以内とされる。

次の記述は正しいか。バス運転者の年間拘束時間には基準がなく、月ごとの管理だけでよい。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q013 正答：×

解説：改正改善基準告示では、バス運転者の年間・月間拘束時間に原則上限が設けられています。例外規定の適用には追加条件があります。

Q014

労働基準法関係

タグ：バス・年間拘束

用語：バス運転者の年間拘束時間は原則3,300時間以内、1か月は原則281時間以内とされる。

バス運転者の原則的な拘束時間基準の組合せとして正しいものはどれか。

- A. 年間4,800時間、1か月400時間。
- B. 年間3,300時間以内、1か月281時間以内。
- C. 年間960時間、1か月45時間。
- D. 年間2,000時間、1か月100時間。

答え・解説

Q014 正答：B. 年間3,300時間以内、1か月281時間以内。

解説：改正改善基準告示では、バス運転者の年間・月間拘束時間に原則上限が設けられています。例外規定の適用には追加条件があります。

Q015

労働基準法関係

タグ：バス・1日拘束

用語：バス運転者の1日の拘束時間は原則13時間以内、延長しても上限15時間で、14時間超となる回数をできるだけ少なくする。

次の記述は正しいか。バス運転者の1日の拘束時間は原則13時間以内で、延長しても15時間が上限である。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q015 正答：○

解説：長い拘束は疲労蓄積につながるため、原則13時間、最大15時間の範囲で管理します。

Q016

労働基準法関係

タグ：バス・1日拘束

用語：バス運転者の1日の拘束時間は原則13時間以内、延長しても上限15時間で、14時間超となる回数をできるだけ少なくする。

バス運転者の1日の拘束時間として正しいものはどれか。

- A. 原則13時間以内、延長しても15時間以内。
- B. 原則15時間、上限20時間。
- C. 原則8時間、上限9時間。
- D. 上限は定められていない。

答え・解説

Q016 正答：A. 原則13時間以内、延長しても15時間以内。

解説：長い拘束は疲労蓄積につながるため、原則13時間、最大15時間の範囲で管理します。

Q017

労働基準法関係

タグ：バス・休息

用語：バス運転者の1日の休息期間は継続11時間以上与えるよう努めることを基本とし、継続9時間を下回ってはならない。

次の記述は正しいか。バス運転者の休息期間は、分割して合計6時間あれば常に足りる。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q017 正答：×

解説：十分な連続休息を確保し、睡眠と疲労回復の時間を守ります。

Q018

労働基準法関係

タグ：バス・休息

用語：バス運転者の1日の休息期間は継続11時間以上与えるよう努めることを基本とし、継続9時間を下回ってはならない。

バス運転者の休息期間の基準として正しいものはどれか。

- A. 継続4時間以上。
- B. 合計6時間で分割自由。
- C. 休息は不要。
- D. 継続11時間以上を基本とし、継続9時間を下回らない。

答え・解説

Q018 正答：D. 継続11時間以上を基本とし、継続9時間を下回らない。

解説：十分な連続休息を確保し、睡眠と疲労回復の時間を守ります。

Q019

労働基準法関係

タグ：バス・連続運転

用語：バス運転者の連続運転時間は4時間以内とし、基準に沿って休止時間を確保する。

次の記述は正しいか。バス運転者は、連続運転時間が4時間を超えないよう休止時間を確保する。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q019 正答：○

解説：長時間の連続運転を避け、所定の休止時間を取って注意力を回復させます。

Q020

労働基準法関係

タグ：バス・連続運転

用語：バス運転者の連続運転時間は4時間以内とし、基準に沿って休止時間を確保する。

バス運転者の連続運転時間の上限として正しいものはどれか。

- A. 2時間以内。
- B. 8時間以内。
- C. 4時間以内。
- D. 上限なし。

答え・解説

Q020 正答：C. 4時間以内。

解説：長時間の連続運転を避け、所定の休止時間を取って注意力を回復させます。

Q021

労働基準法関係

タグ：バス・運転時間

用語：バス運転者の運転時間は、2日平均で1日9時間以内、4週平均で1週40時間以内を基本とする。

次の記述は正しいか。バス運転者の運転時間は、1日単位だけ見ればよく、複数日の平均管理は不要である。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q021 正答：×

解説：日ごとのばらつきを含めて疲労を管理するため、2日・4週の平均基準があります。

Q022

労働基準法関係

タグ：バス・運転時間

用語：バス運転者の運転時間は、2日平均で1日9時間以内、4週平均で1週40時間以内を基本とする。

バス運転者の運転時間基準として正しい組合せはどれか。

- A. 2日平均1日15時間、4週平均1週80時間。
- B. 2日平均1日9時間以内、4週平均1週40時間以内。
- C. 1日5時間固定、週20時間固定。
- D. 平均基準はない。

答え・解説

Q022 正答：B. 2日平均1日9時間以内、4週平均1週40時間以内。

解説：日ごとのばらつきを含めて疲労を管理するため、2日・4週の平均基準があります。

Q023

労働基準法関係

タグ：タクシー・月拘束

用語：日勤勤務のハイヤー・タクシー運転者の1か月拘束時間は288時間以内とされる。

次の記述は正しいか。日勤勤務のタクシー運転者の1か月拘束時間は288時間以内である。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q023 正答：○

解説：タクシーの日勤勤務には月間拘束時間の上限が定められています。

Q024

労働基準法関係

タグ：タクシー・月拘束

用語：日勤勤務のハイヤー・タクシー運転者の1か月拘束時間は288時間以内とされる。

日勤勤務のタクシー運転者の1か月拘束時間の上限はどれか。

- A. 288時間。
- B. 160時間。
- C. 360時間。
- D. 上限なし。

答え・解説

Q024 正答：A. 288時間。

解説：タクシーの日勤勤務には月間拘束時間の上限が定められています。

Q025

労働基準法関係

タグ：タクシー・1日拘束

用語：日勤勤務のハイヤー・タクシー運転者の1日の拘束時間は原則13時間以内、延長しても15時間以内とされる。

次の記述は正しいか。日勤勤務のタクシー運転者は、1日20時間まで拘束してもよい。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q025 正答：×

解説：長時間拘束を抑え、14時間を超える日をできるだけ少なくする必要があります。

Q026

労働基準法関係

タグ：タクシー・1日拘束

用語：日勤勤務のハイヤー・タクシー運転者の1日の拘束時間は原則13時間以内、延長しても15時間以内とされる。

日勤勤務のタクシー運転者の1日拘束時間として正しいものはどれか。

- A. 原則18時間、上限24時間。
- B. 上限8時間。
- C. 上限なし。
- D. 原則13時間以内、延長しても15時間以内。

答え・解説

Q026 正答：D. 原則13時間以内、延長しても15時間以内。

解説：長時間拘束を抑え、14時間を超える日をできるだけ少なくする必要があります。

Q027

労働基準法関係

タグ：タクシー・休息

用語：日勤勤務のハイヤー・タクシー運転者の休息期間は継続11時間以上を基本とし、継続9時間を下回ってはならない。

次の記述は正しいか。日勤勤務のタクシー運転者の休息期間は、継続11時間以上を基本とし、最低9時間を確保する。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q027 正答：○

解説：勤務間の連続休息を確保し、睡眠不足と疲労蓄積を防ぎます。

Q028

労働基準法関係

タグ：タクシー・休息

用語：日勤勤務のハイヤー・タクシー運転者の休息期間は継続11時間以上を基本とし、継続9時間を下回ってはならない。

日勤勤務のタクシー運転者の休息期間として正しいものはどれか。

- A. 継続3時間以上。
- B. 合計5時間でよい。
- C. 継続11時間以上を基本とし、継続9時間を下回らない。
- D. 休息期間は不要。

答え・解説

Q028 正答：C. 継続11時間以上を基本とし、継続9時間を下回らない。

解説：勤務間の連続休息を確保し、睡眠不足と疲労蓄積を防ぎます。

Q029

労働基準法関係

タグ：休憩と休息

用語：勤務中の休憩は拘束時間に含まれるが、勤務と次の勤務の間の休息期間は拘束時間外である。

次の記述は正しいか。営業所で30分休憩すれば、次の勤務までの休息期間を確保したことになる。

- A. ○
- B. ×

答え・解説

Q029 正答：×

解説：名称が似ていますが、拘束時間管理では明確に区別します。

Q030

労働基準法関係

タグ：休憩と休息

用語：勤務中の休憩は拘束時間に含まれるが、勤務と次の勤務の間の休息期間は拘束時間外である。

休憩時間と休息期間の違いとして適切なものはどれか。

- A. どちらも運転時間だけを指す。
- B. 休憩は拘束時間内、休息期間は勤務間の拘束を受けない時間。
- C. どちらも必ず30分である。
- D. 休息期間は拘束時間に含まれる。

答え・解説

Q030 正答：B. 休憩は拘束時間内、休息期間は勤務間の拘束を受けない時間。

解説：名称が似ていますが、拘束時間管理では明確に区別します。